

施設の概要

◆計画処理量（1日間）

し尿	26 キロリットル
浄化槽汚泥	65 キロリットル
集落排水汚泥	1 キロリットル
合計	92 キロリットル (25m プール 1/4 杯分)

◆処理方法

- 生物学的脱窒素処理
※処理水中の微生物で汚泥などを処理する方式
- 脱水処理後に発生する固形物は助燃剤として市内のごみ焼却施設で焼却。
※助燃剤とは汚泥を含水率70%以下に脱水した固形物のこと。
- 処理水は、すべて公共下水道に放流します。

事業の経過

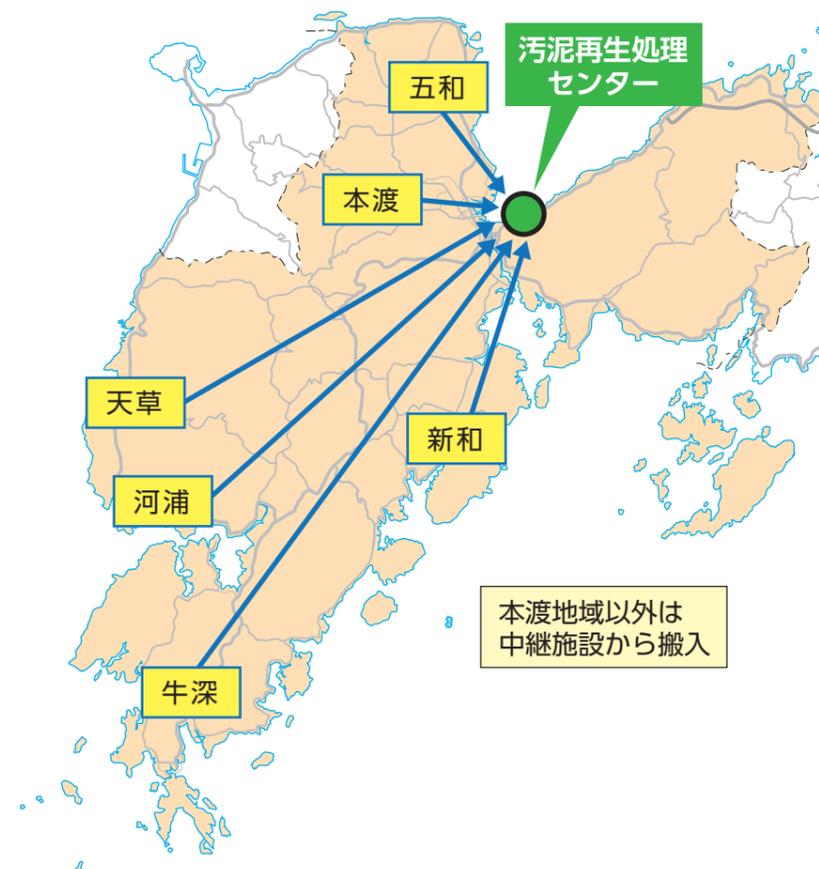
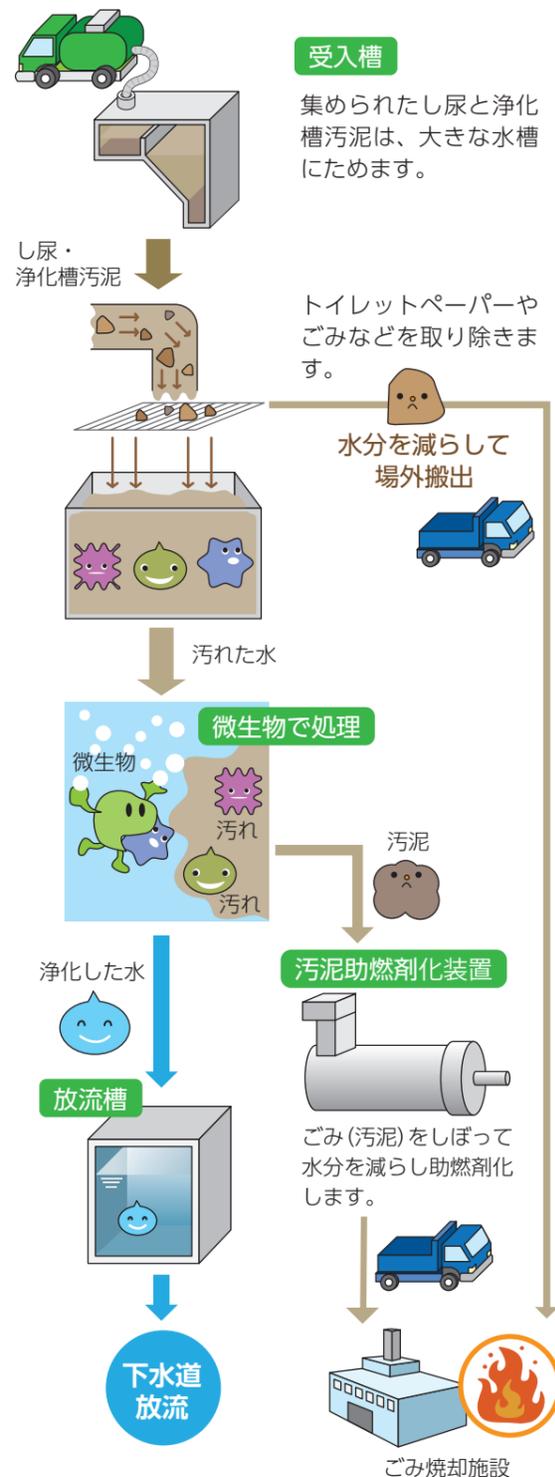
平成24年度から施設の建設を進めてきましたが、当初計画していたバイオマスタウン構想による“生ごみ”を受け入れて“メタン発酵”する処理方式では、維持管理や生ごみの分別収集など、将来的に大きな負担を伴うことから、平成26年7月に処理方式を見直し、生ごみは処理せず、建設費や維持管理費が比較的少ない処理方式で整備しました。

見直しによる削減効果 55億3,000万円

- 建設費 約9億5,000万円の削減
当初計画 28億6,500万円
→ 実績 19億1,484万円 ※本体工事費で比較
- 施設維持管理費30年間で
約45億8,000万円削減
内訳：生ごみ収集運搬経費 約43億円
維持管理費 約2億8,000万円

処理の流れ

水分と固形分を分けて、脱水した固形物は助燃剤となります。水分は微生物の力を借りて浄化した後、公共下水道に流します。臭いは微生物や薬品、活性炭で取り除いた後、大気に放出します。



くみ取ったし尿や浄化槽汚泥は、本渡地域は天草市汚泥再生処理センターに直接搬入し、牛深・新和・天草・河浦・五和地域は、それぞれ中継施設に集めた後、し尿運搬車で同センターに搬入します。

市内の各家庭や事業所から発生するし尿や浄化槽汚泥などを処理するため、志柿町に新たに天草市汚泥再生処理センターを整備しました。これまで、本渡・五和地域は本渡衛生センターで、牛深・新和・天草・河浦地域は牛深し尿処理場の2つの施設で処理していたものを4月からは当センターで処理します。有明・御所浦・倉岳・栖本地域のし尿や浄化槽汚泥は、これまでどおり上天草衛生センターで処理します。

天草市汚泥再生処理センターが完成